

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 1章 40-45節 (新約聖書 62頁)

さて、規定の病を患っている人が、イエスのところに来て、ひざまずいて願い、「お望みならば、私を清くすることがおできになります」と言った。イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「私は望む。清くなれ」と言われると、たちまち規定の病は去り、その人は清くなった。イエスは、彼を厳しく戒めて、すぐに立ち去らせ、こう言われた。「誰にも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めた物を清めのために献げて、人々に証明しなさい。」しかし、彼は出て行って、大いにこの出来事を触れ回り、言い広め始めた。それで、イエスはもはや表立って町に入ることができず、外の寂しい所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

### 清め

「規程の病」とは「重い皮膚病」とも訳され、当時は不治の病でした。けがや病気、事故や天変地異など突然降りかかる災いは、誰もが自分の穢れ、罪に対する神の罰だと信じていました。だから病気が「治る」ではなく、「清め」という言葉が使われています。

しかし「清め」とは自分の正しさを証明する言葉でも、人を裁く言葉でもありません。本来「聖別される」「神様のものとなる」という意味です。あなたに足りない、欠けたところがあっても、神様はあなた愛しているという意味です。

たがらイエスはまず何も言わずに手を差し伸べ、触れ、彼の穢れを自らの穢れとします。イエスは人の痛みを、自分の痛みと感じて

います。そしてあなたは穢れていない、祝福されていると宣言し、その喜びを人々に証明しなさいと言うのです。

神学生の頃、病にある方、知的障がいの方と共に生活しました。毎日驚かされ、自分が情けなく、恥ずかしく、そして楽しく、信じられないことの連続でした。「あなたは、あなたのままでいい」「あなたは素晴らしい」という世界でした。忘れられません。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは、わたしが豊かな時も貧しい時も、健康な時も病にある時も、どんな時もわたしを愛して共にいてくださいます。どうか心騒ぐ日々もありますが、友だちや家族を思い、祈り、あなたの前で自らをふりかえり、共に生かされている喜びと感謝に与らせてください。今、命にかかわる厳しい暑さです。どうか慎み深く、穏やかに生活することができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン